一、相愛會水平社の活動

相愛會長副会長朴春琴等は五月十日頃浜松へ来て大阪から来た鮮人全虎岩が引渡しを争議団に要求した 理由は鮮人にして争議に應援することは日鮮融和を計るに必要なる今日甚だ遺憾とする処である故に緩く説して旅費を與へ歸阪させやうとしたるにある 此の要求を前後兩三日に亘って交渉したが争議団は言を左右にして此の要求に應ぜざるので五月十八日午后二時一団十四五名は同令部に肉迫して遂に大騒動を演ずるに至った 水平社は硬軟両派に分かれ硬派は会社をして解雇を為し軟派は争議団に裏面より

法人協調會

應援をなし煽動したる程度のものであった

一、自由法曹團の活動

最近の争議には必ず附きものの自由法曹團の活動も相當あって會社の横暴、官憲の人權蹂躪、不當圧迫等を高唱し或ひは会社に警察署に押懸ノに詰問し演説會等も催したるが、只だ争議団に氣勢をつける程度であった。尚眞鍋五郎は此の争議團の為争議調停法案にて解決する様努力したが會社が同意をせざりしため不結果に終る。

財團協調會